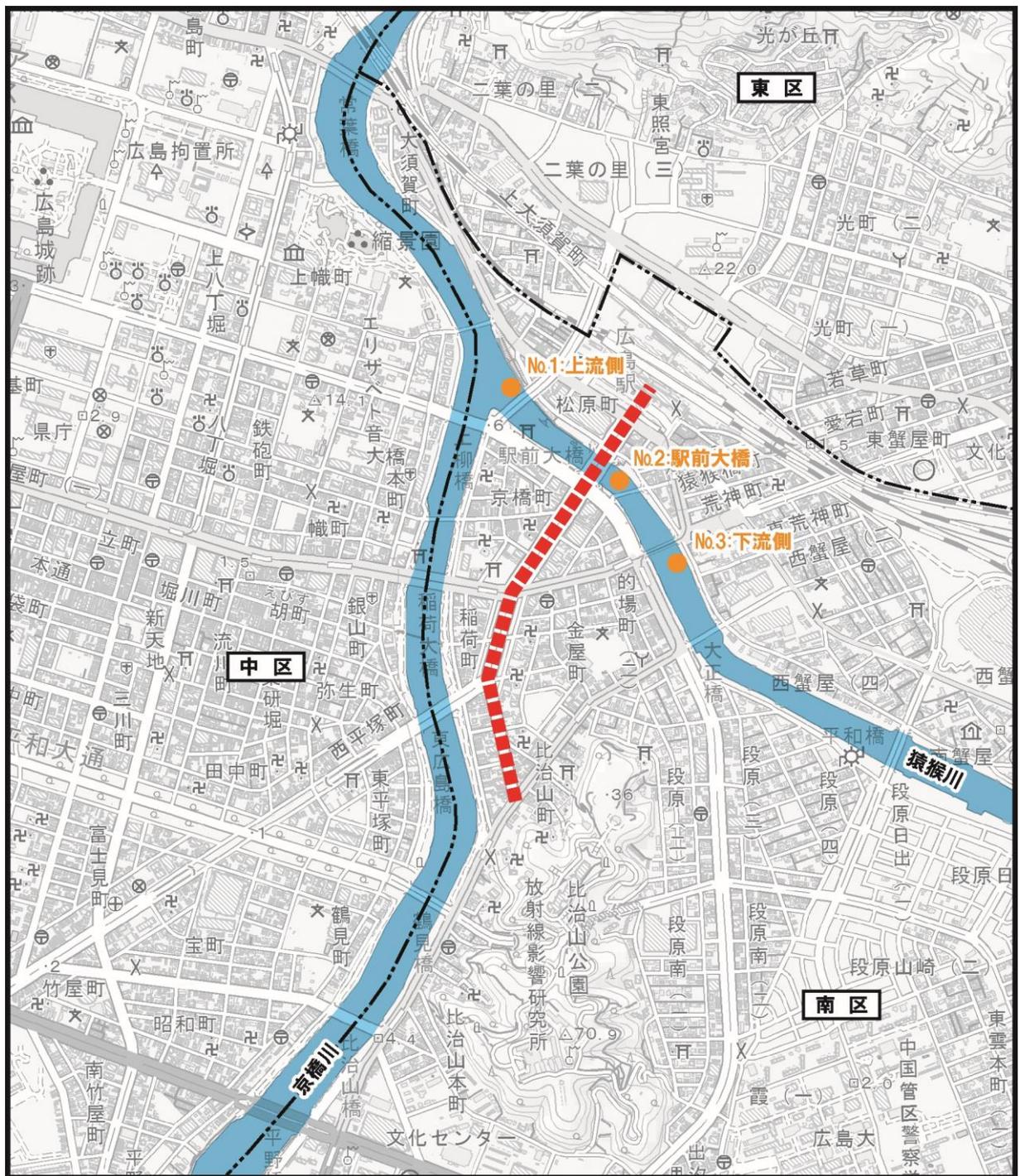


4. 水質（水の汚れ、水の濁り）

4.1 現地調査地点





No.1 : 上流側



No.2 : 駅前大橋

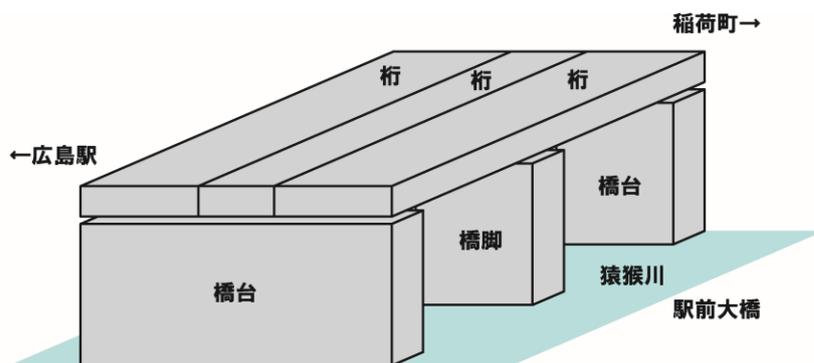


No.3 : 下流側

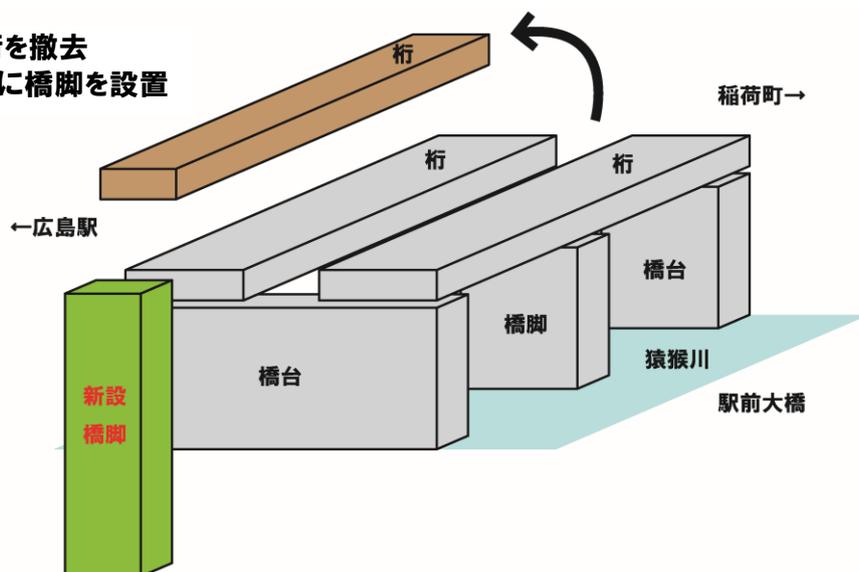
※水質（水素イオン濃度（pH）及び浮遊物質量（SS））の測定結果は本編に記載

4.2 駅前大橋の施工方法

① 現況

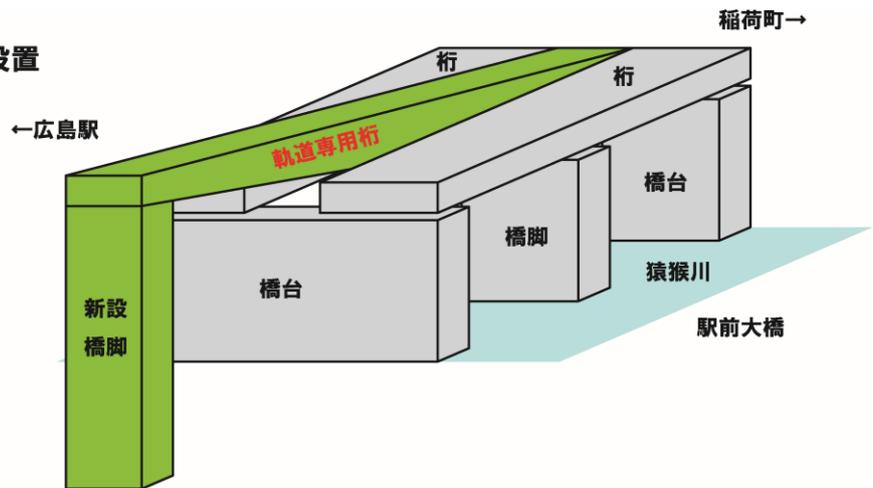


② 駅前大橋の中央部の桁を撤去 既設橋台の背面に新たに橋脚を設置



駅前大橋の中央部の桁は橋の上にクレーンを据えて撤去し、新たに設置する橋脚は既設橋台の背面に設置するため、河川内の工事は予定していない。

③ 軌道専用桁を新たに設置



軌道専用桁はクレーンを橋の上に据えて架設を行うため、河川内の工事は予定していない。

④ 完成(側面図)

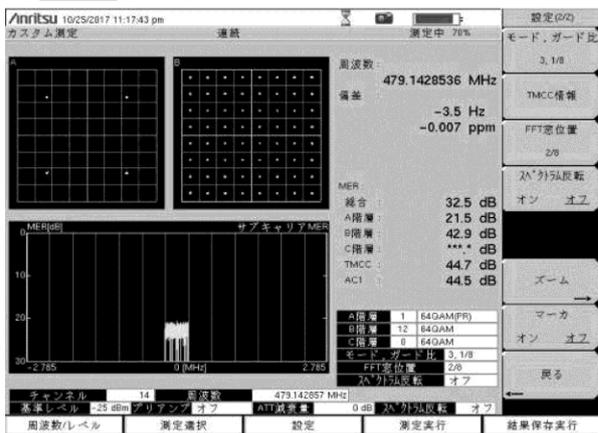


5. 電波障害

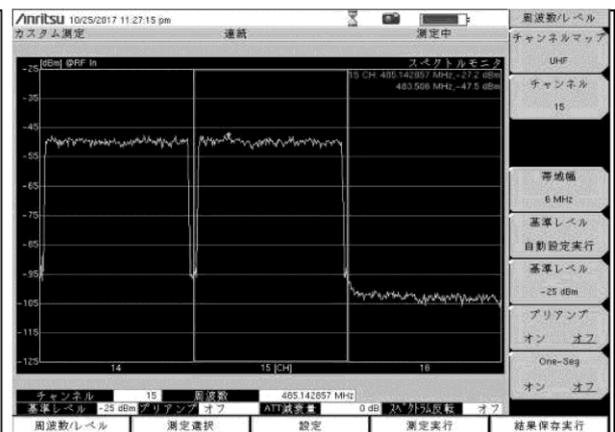
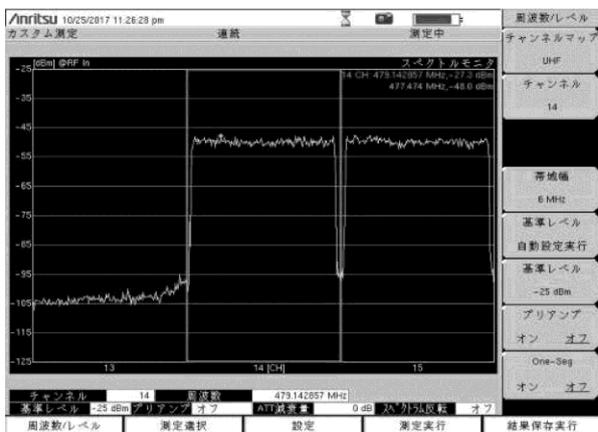
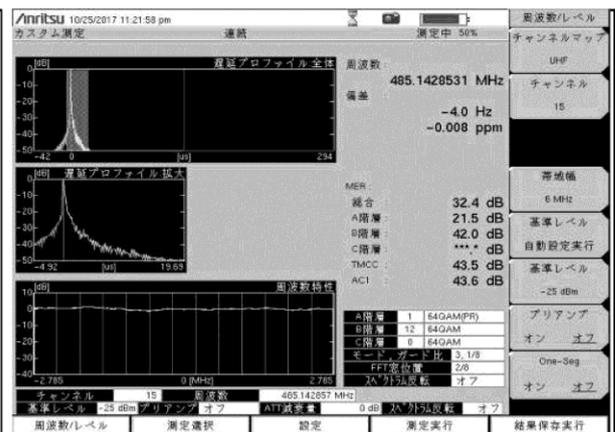
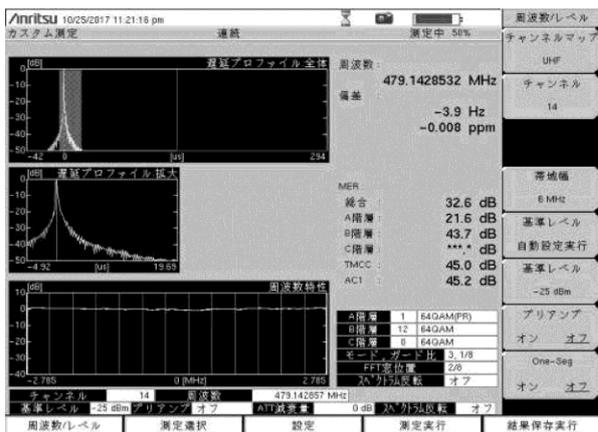
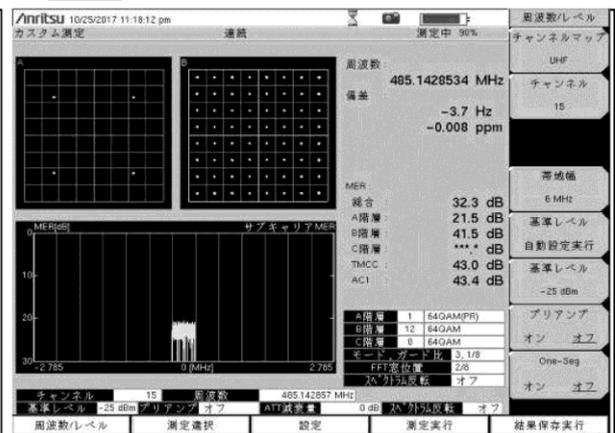
5.1 現地調査結果

調査地点 No.	1	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

NHK-G [測定チャンネル: 14]

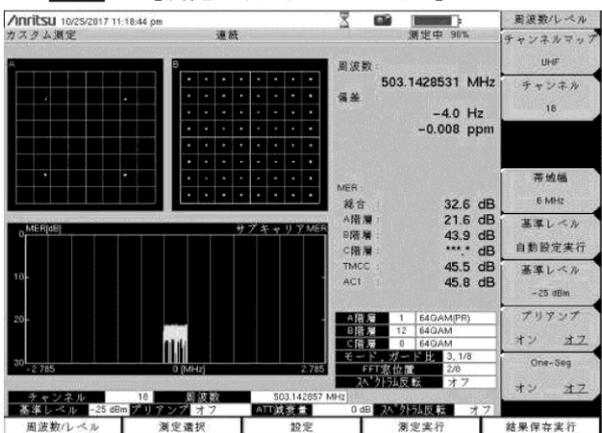


NHK-E [測定チャンネル: 15]

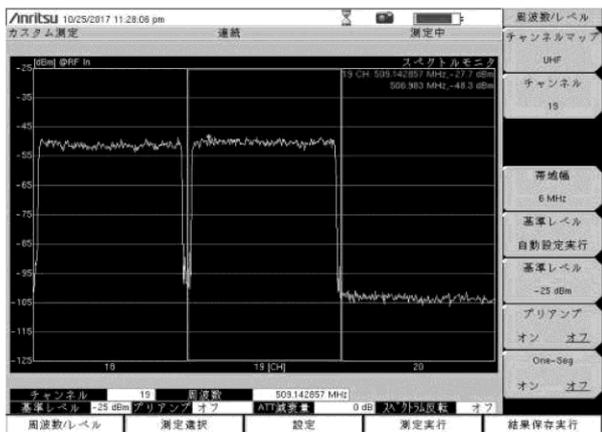
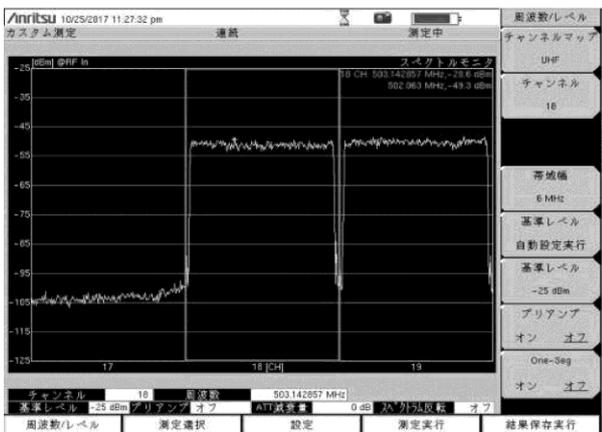
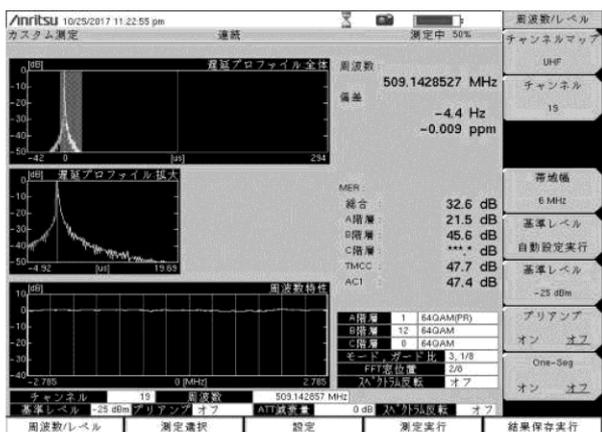
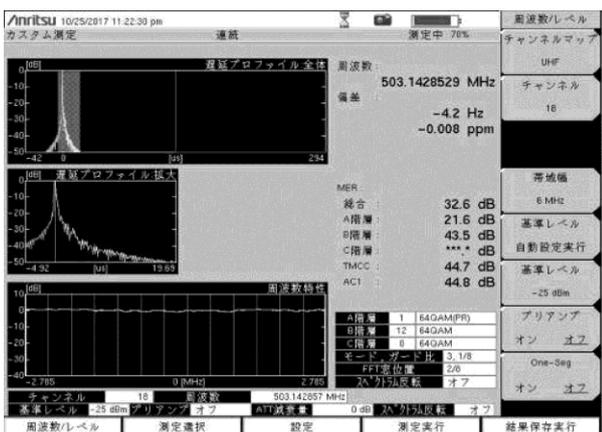
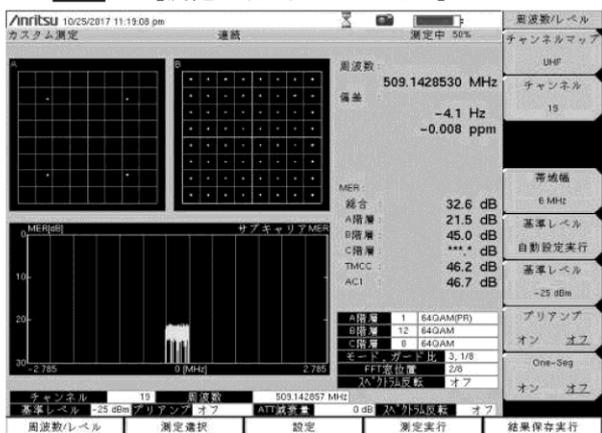


調査地点 No.	1	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

RCC [測定チャンネル: 18]

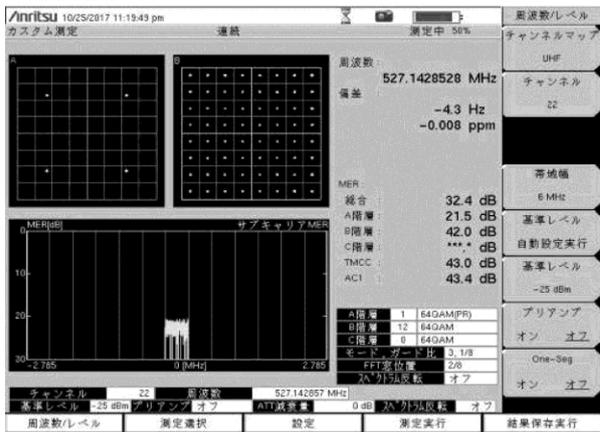


HTV [測定チャンネル: 19]

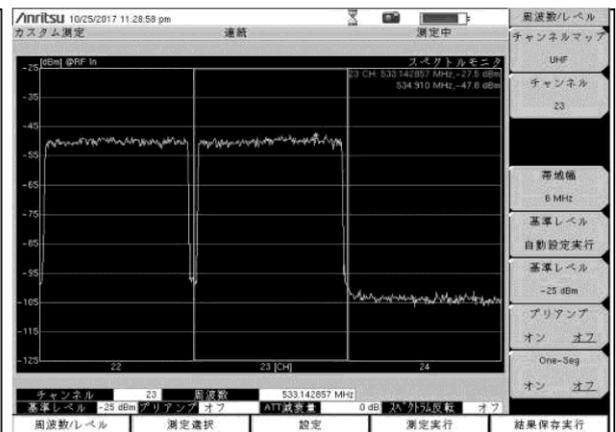
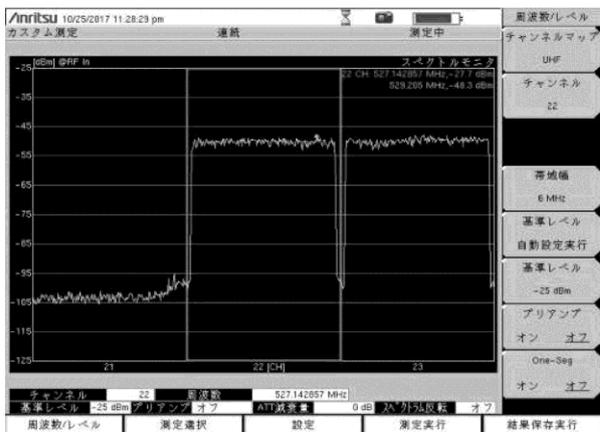
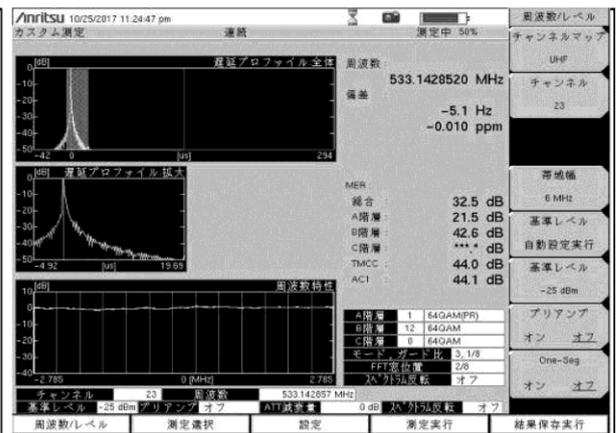
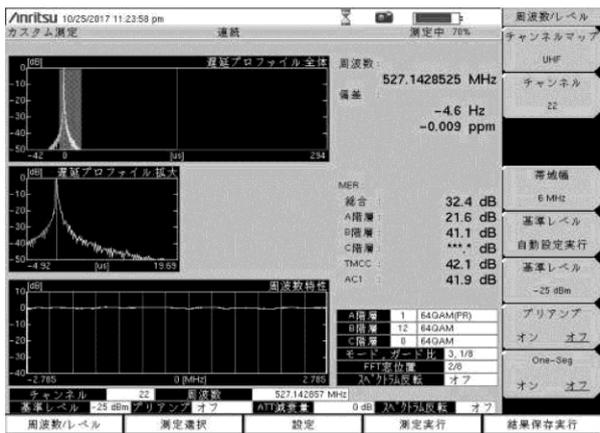
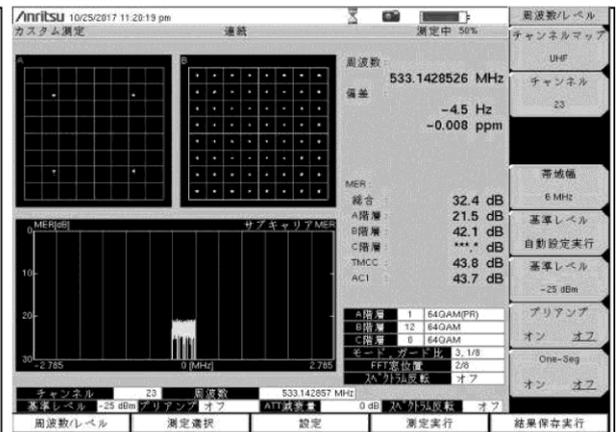


調査地点 No.	1	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

HOME [測定チャンネル: 22]

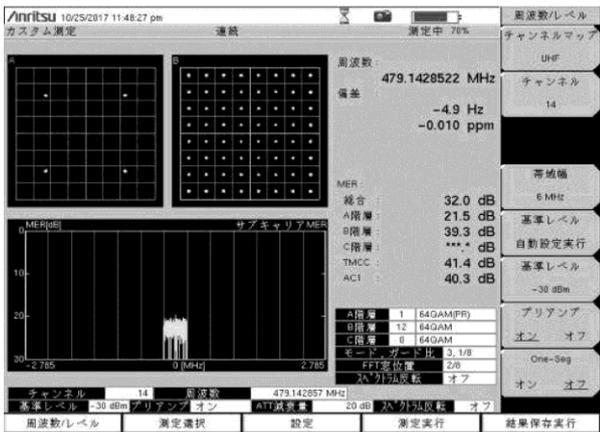


TSS [測定チャンネル: 23]

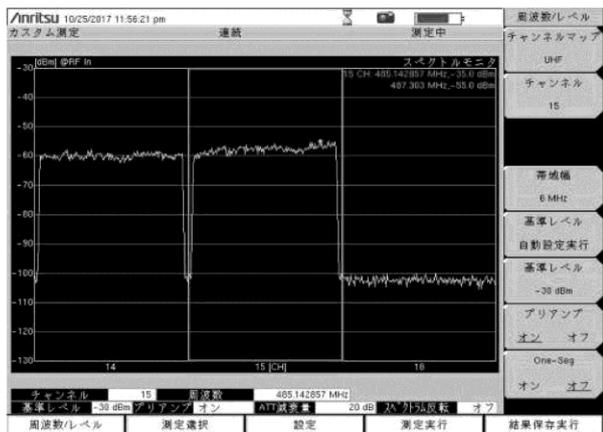
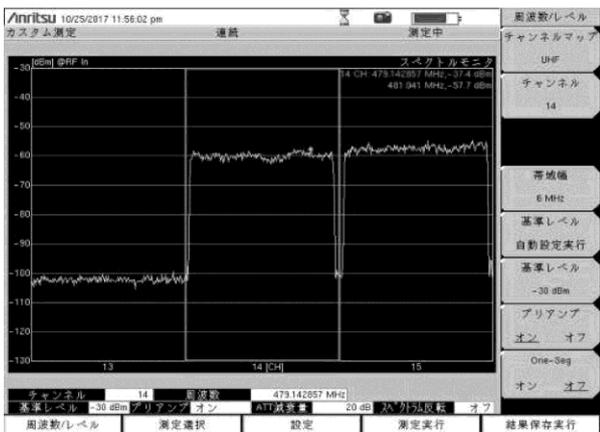
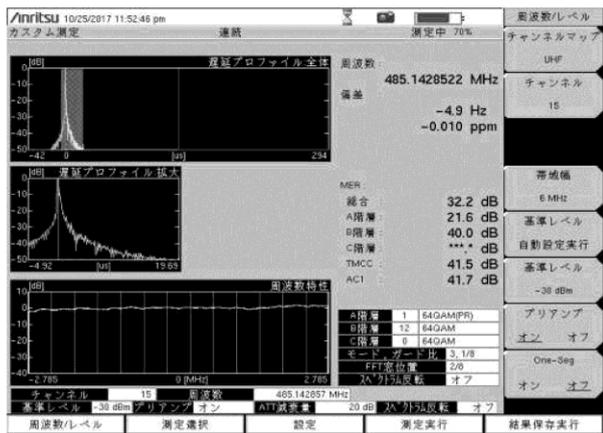
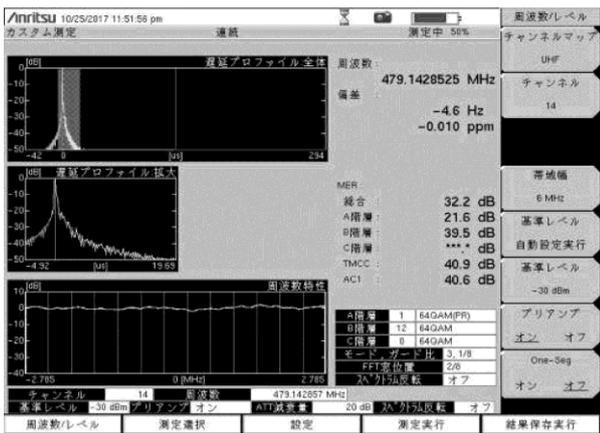
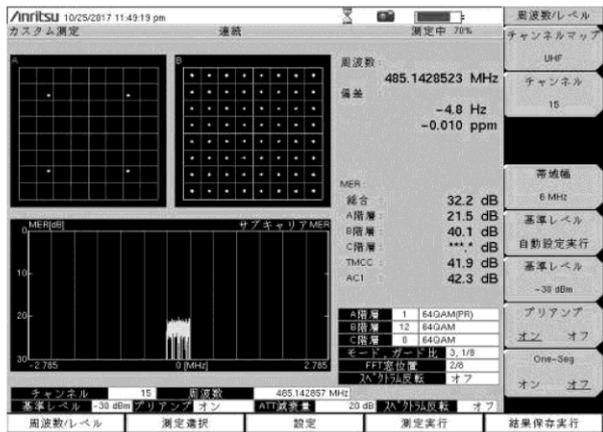


調査地点 No.	2	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

NHK-G [測定チャンネル: 14]

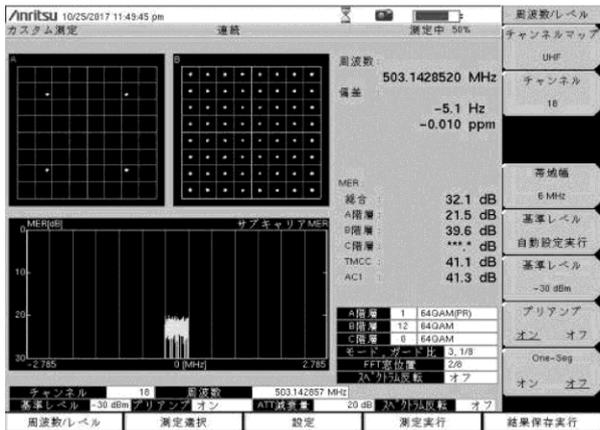


NHK-E [測定チャンネル: 15]

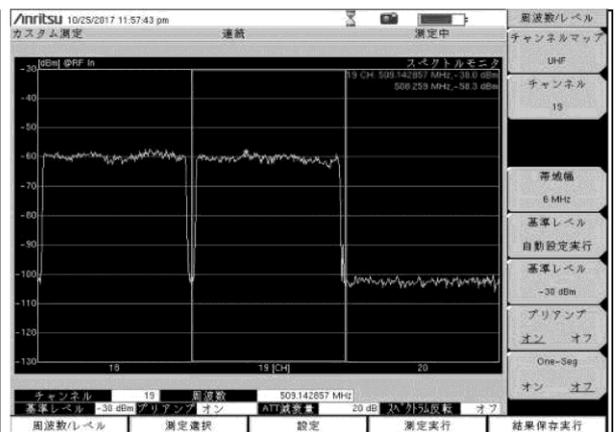
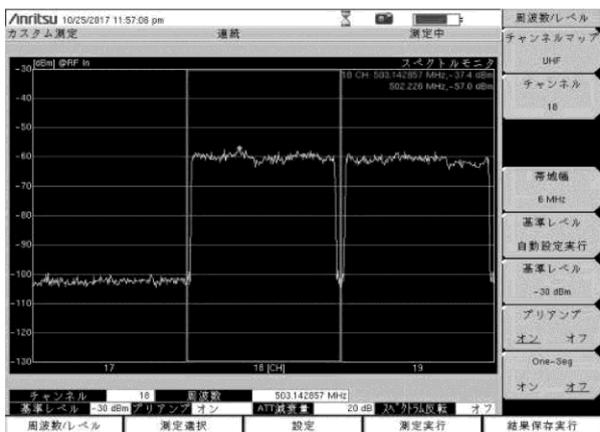
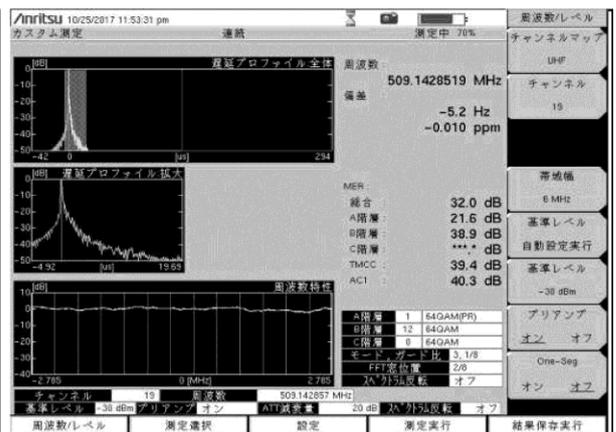
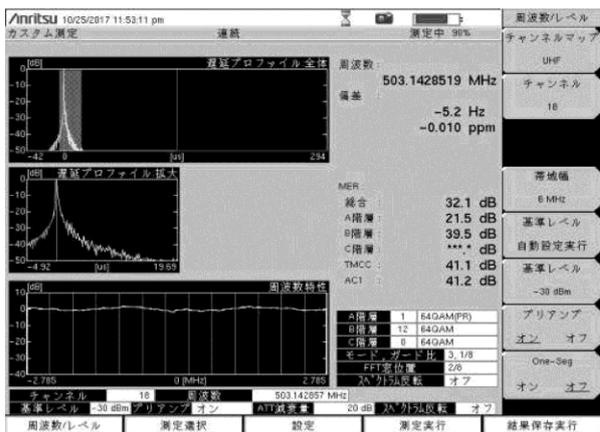
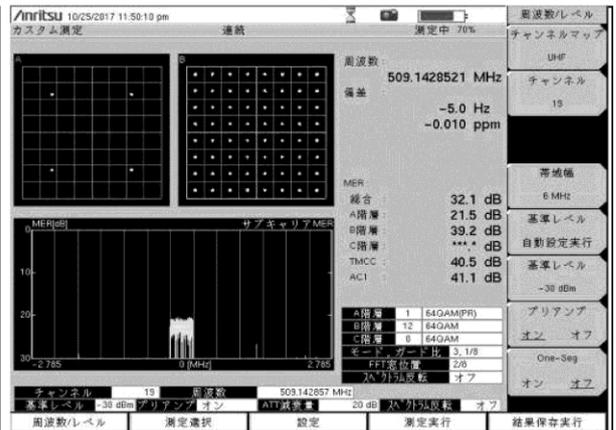


調査地点 No.	2	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

RCC 【測定チャンネル: 18】

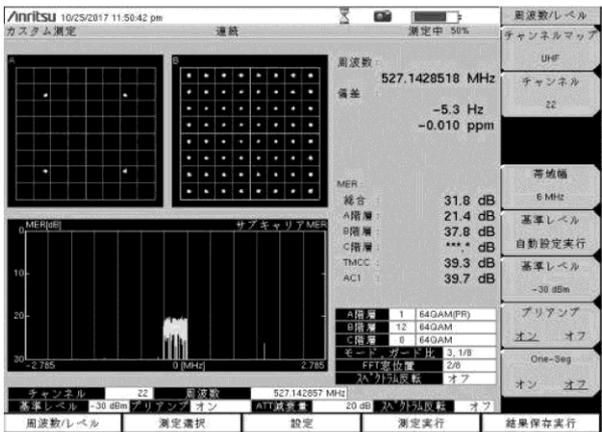


HTV 【測定チャンネル: 19】

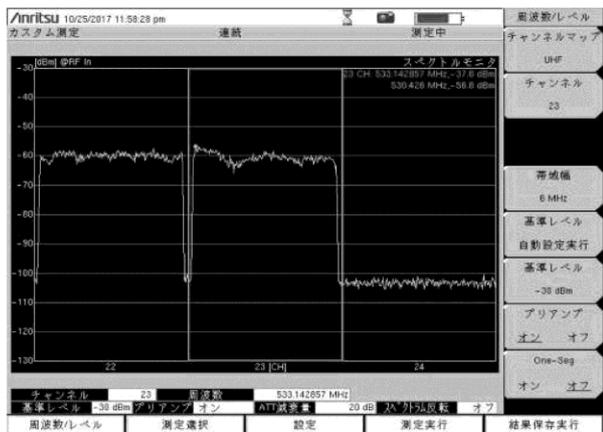
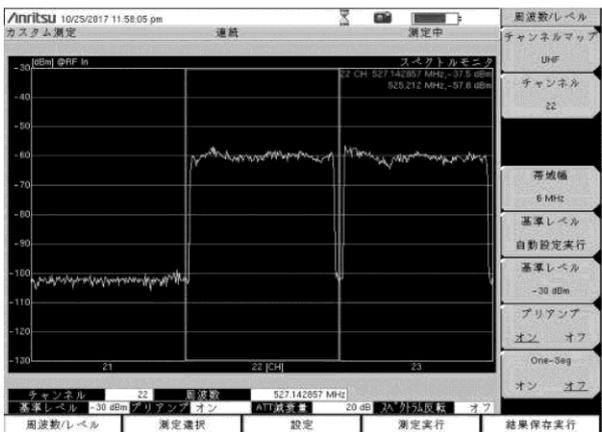
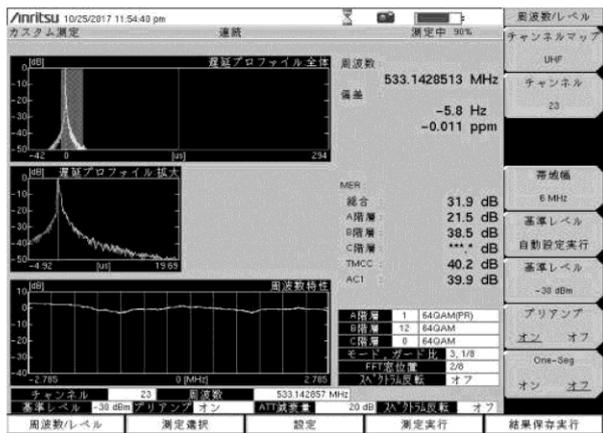
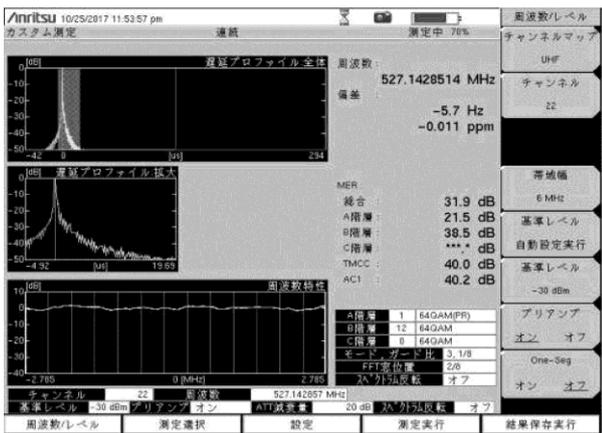
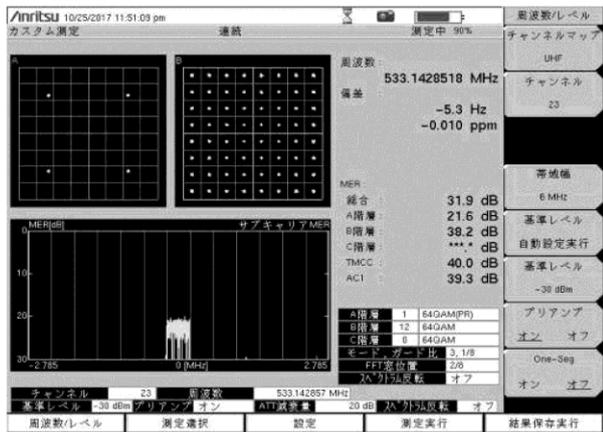


調査地点 No.	2	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

HOME [測定チャンネル: 22]

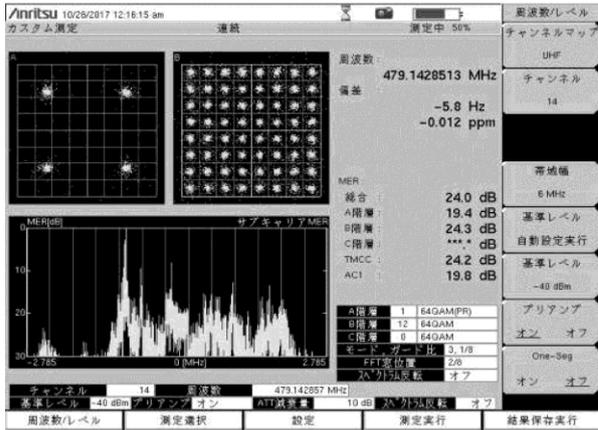


TSS [測定チャンネル: 23]

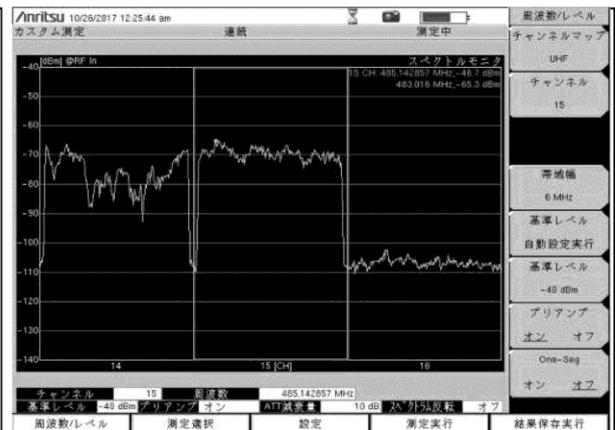
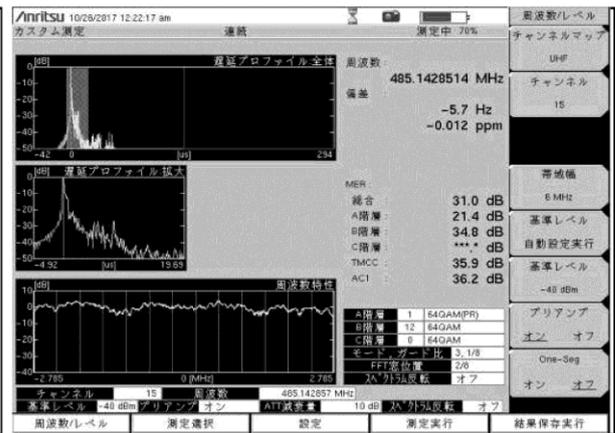
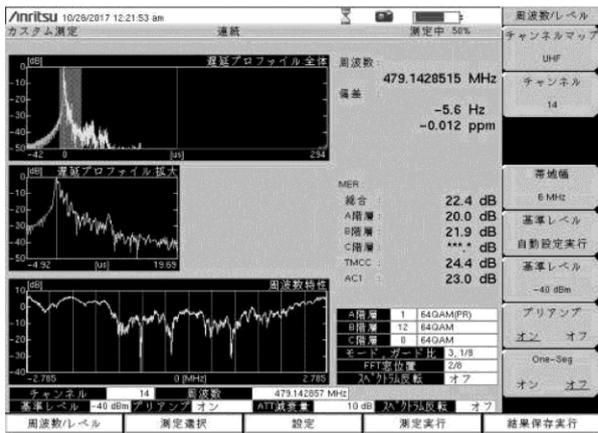
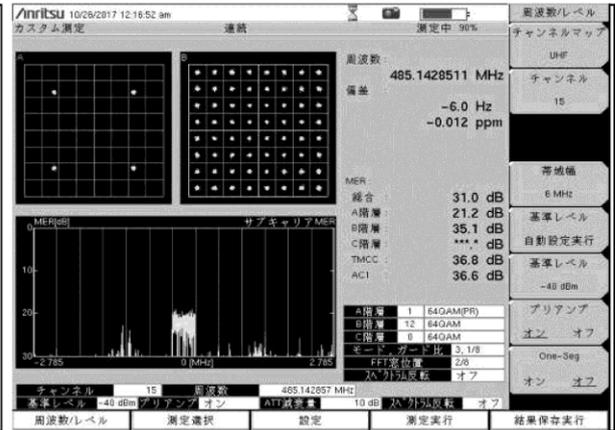


調査地点 No.	3	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

NHK-G [測定チャンネル: 14]

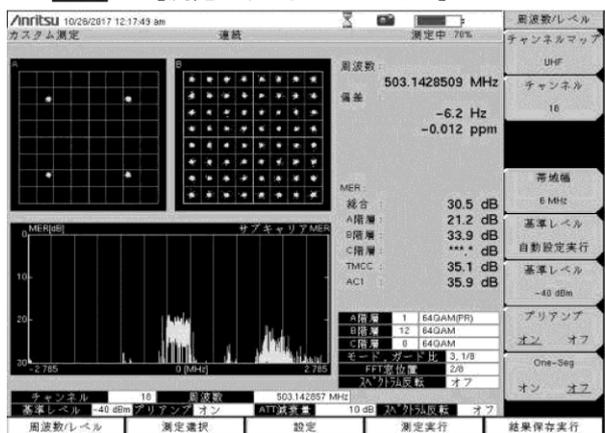


NHK-E [測定チャンネル: 15]

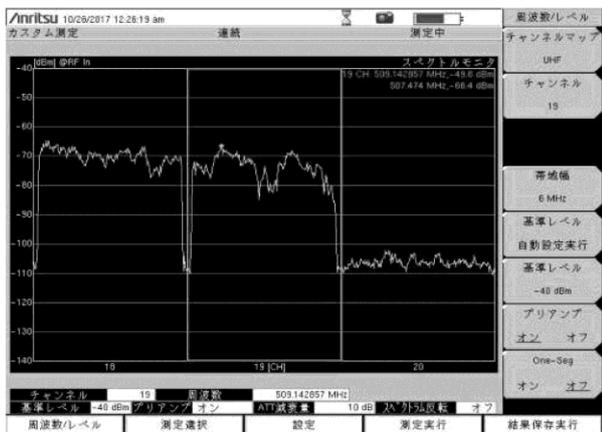
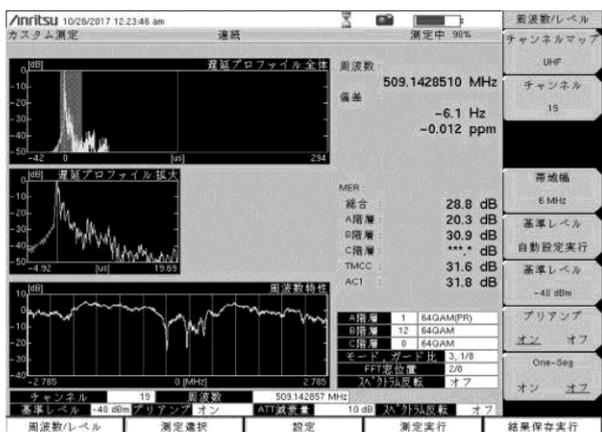
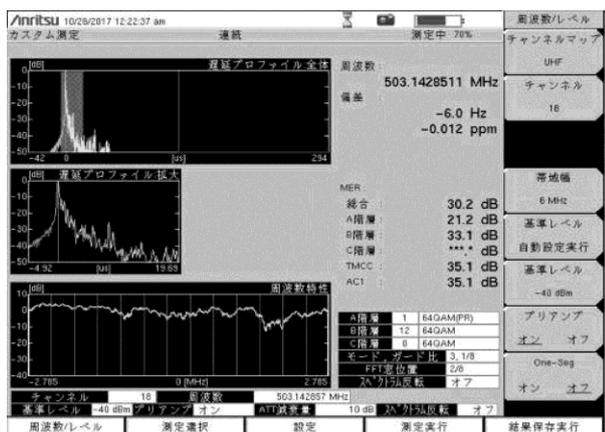
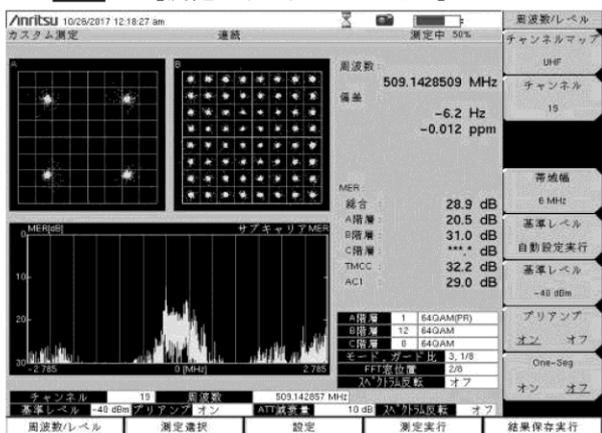


調査地点 No.	3	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

RCC [測定チャンネル: 18]

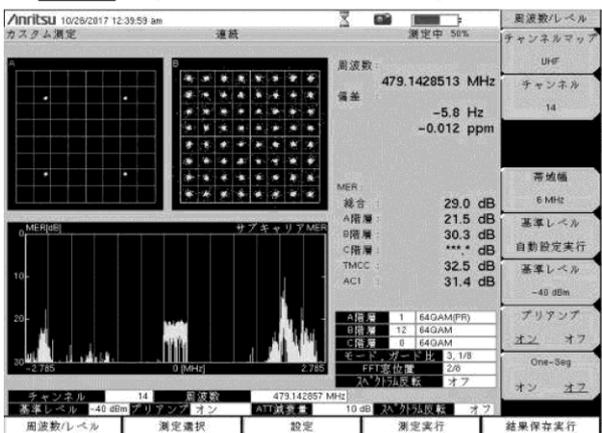


HTV [測定チャンネル: 19]

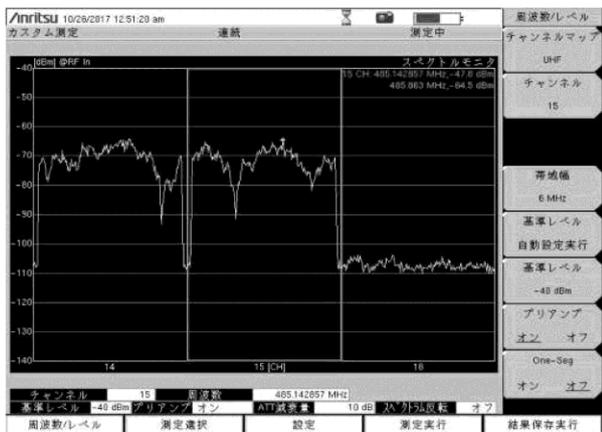
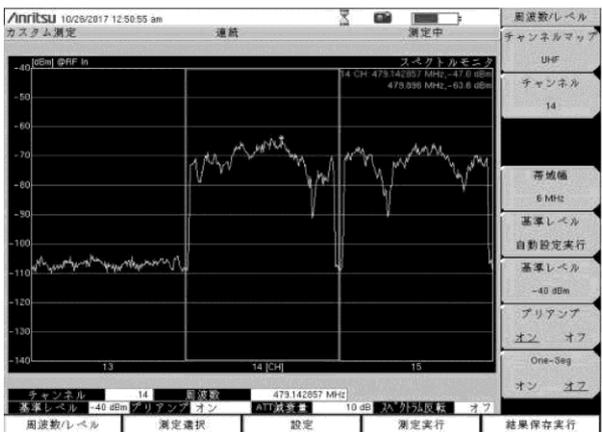
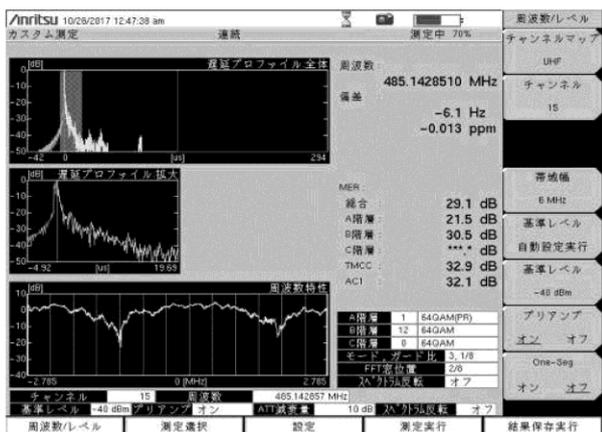
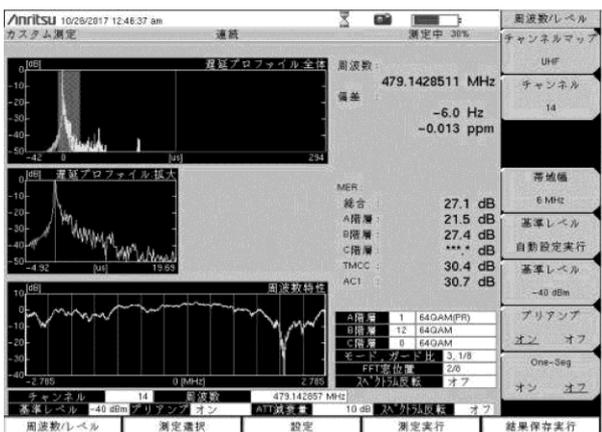
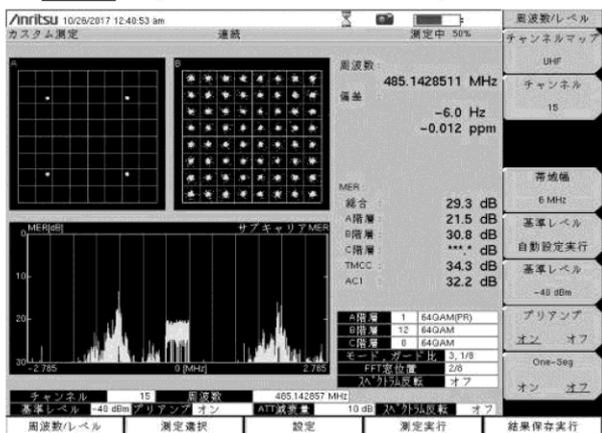


調査地点 No.	4	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

NHK-G [測定チャンネル: 14]

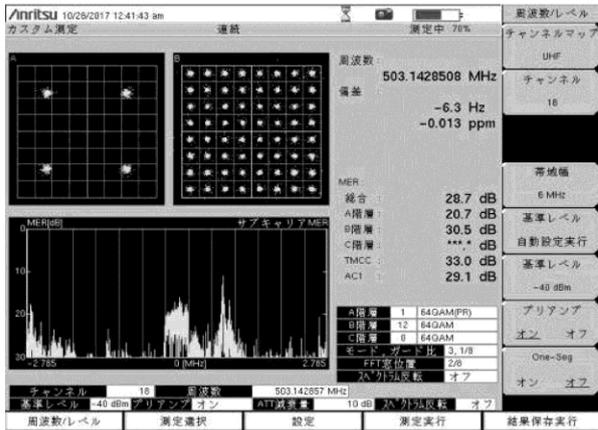


NHK-E [測定チャンネル: 15]

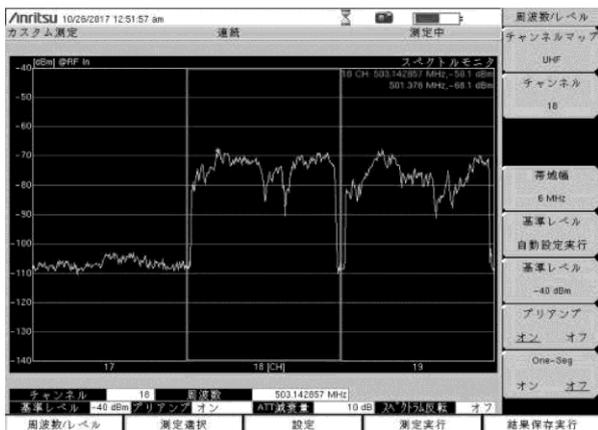
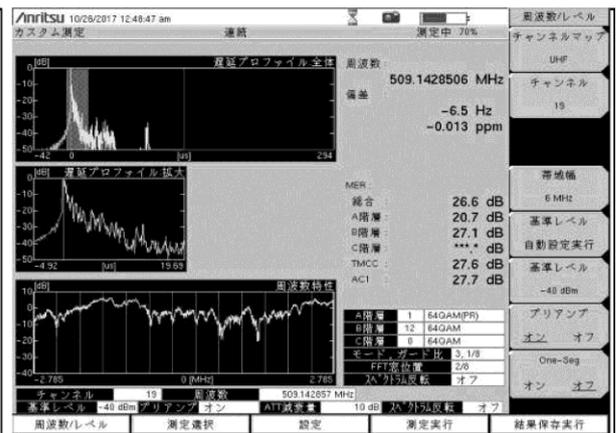
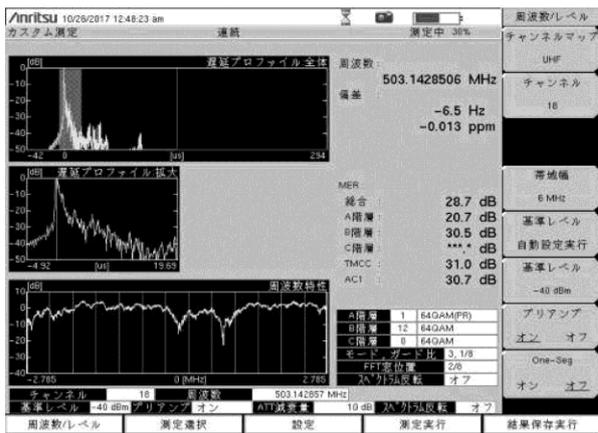
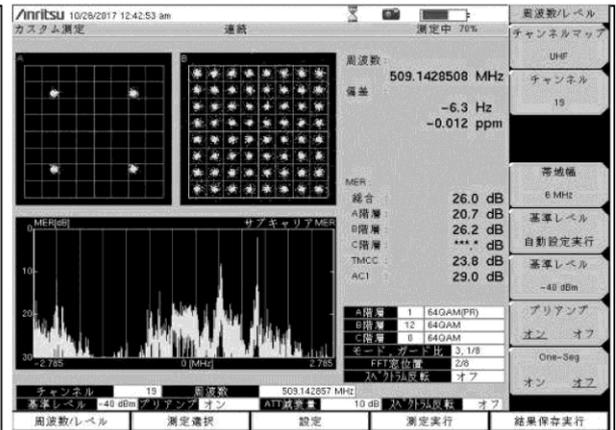


調査地点 No.	4	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

RCC [測定チャンネル: 18]

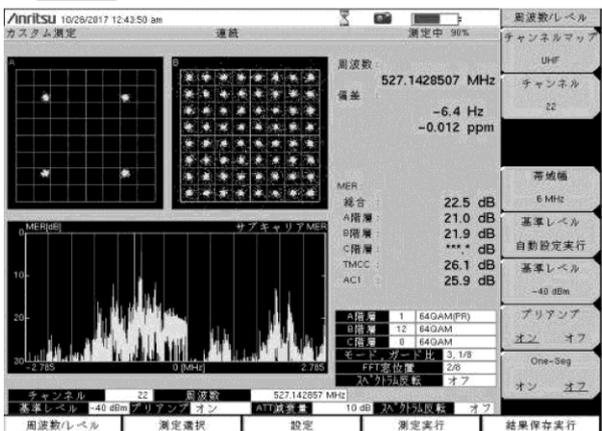


HTV [測定チャンネル: 19]

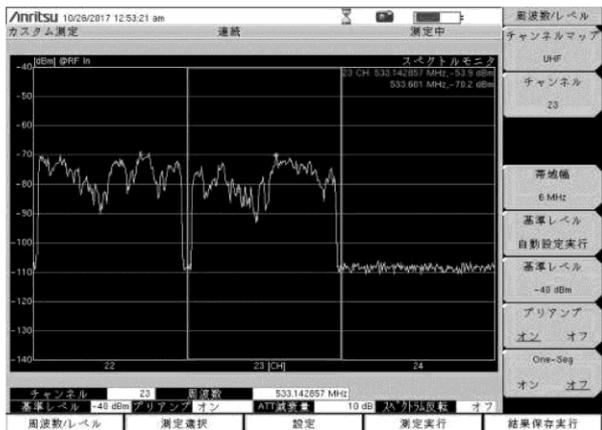
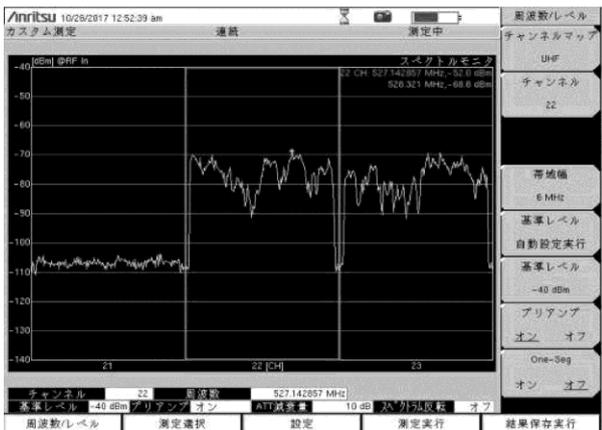
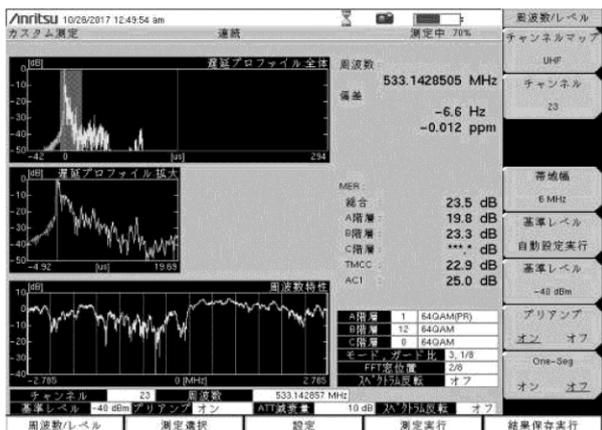
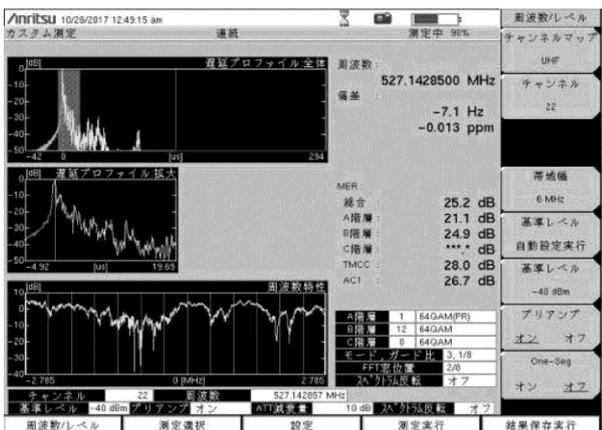
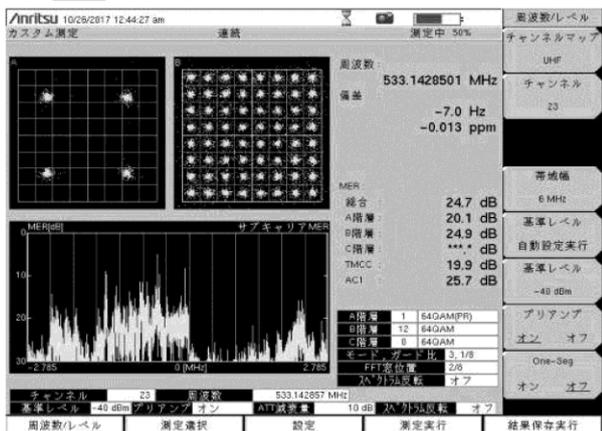


調査地点 No.	4	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

HOME [測定チャンネル: 22]

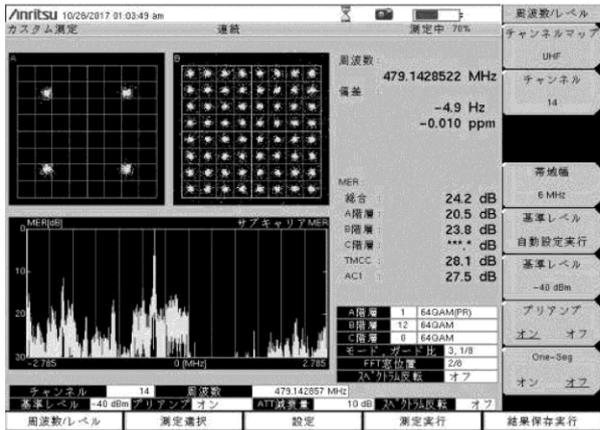


TSS [測定チャンネル: 23]

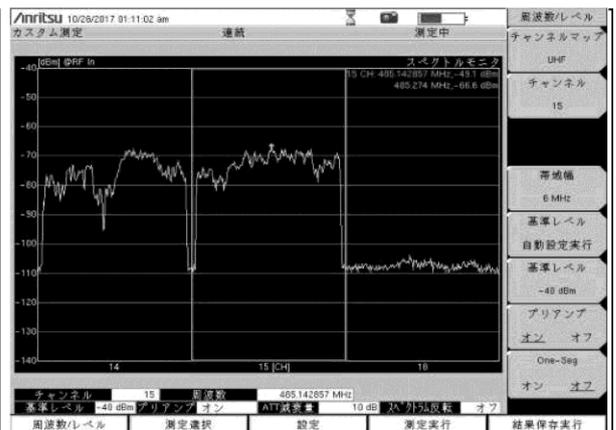
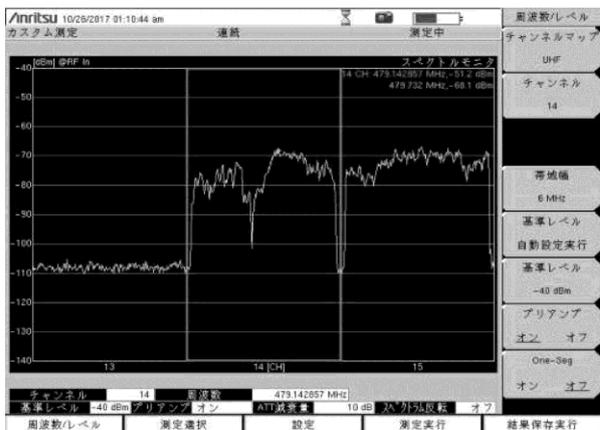
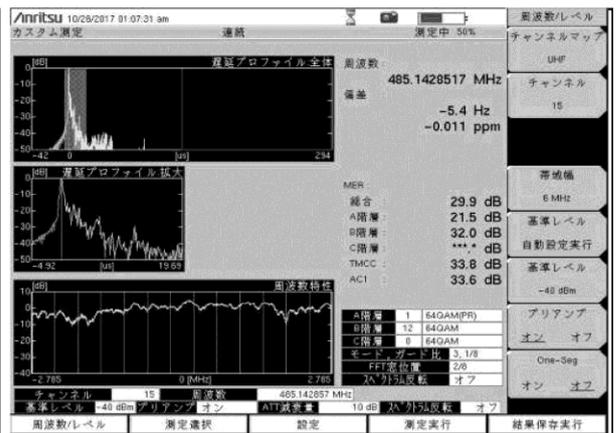
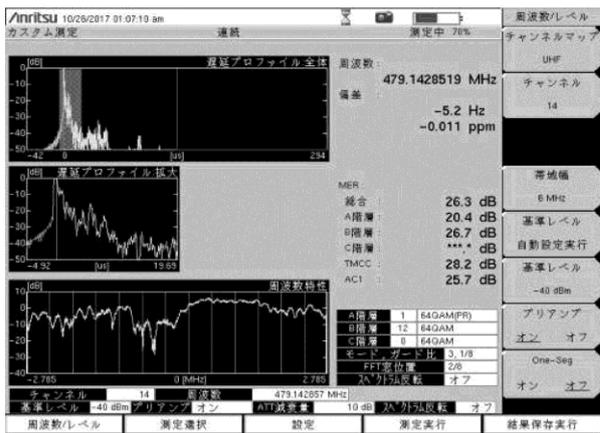
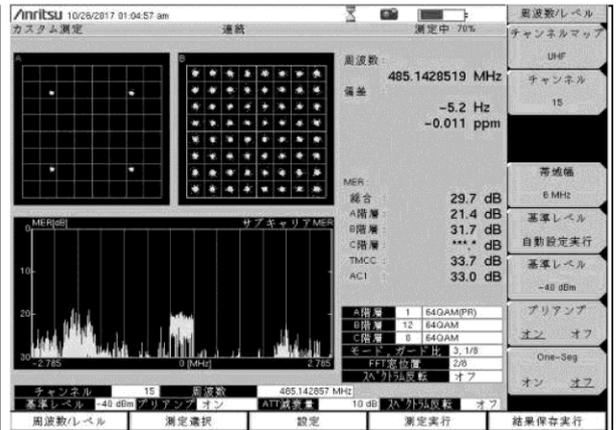


調査地点 No.	5	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

NHK-G [測定チャンネル: 14]

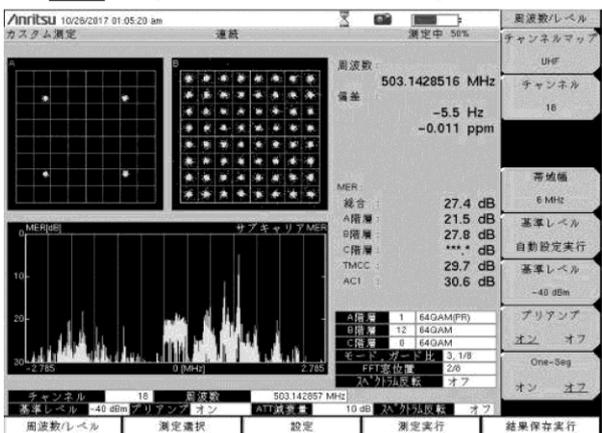


NHK-E [測定チャンネル: 15]

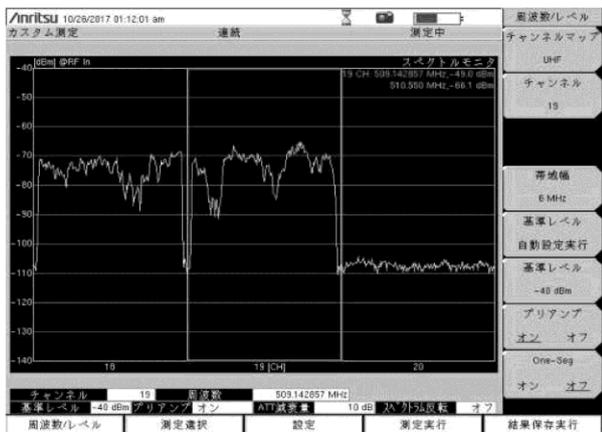
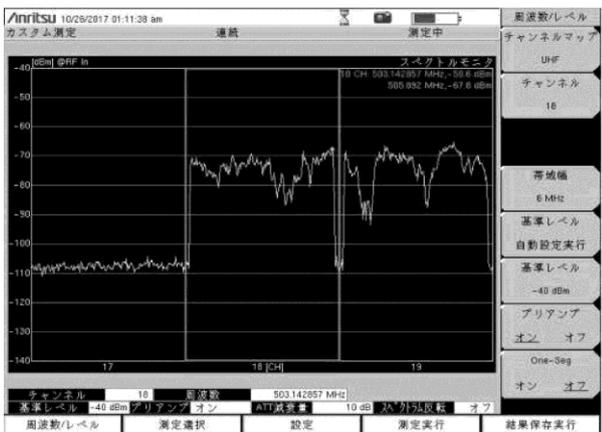
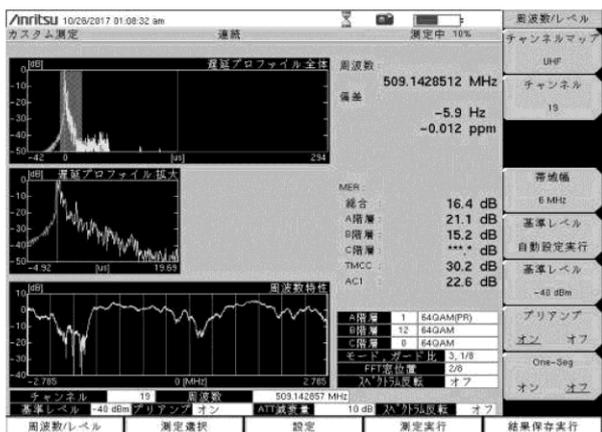
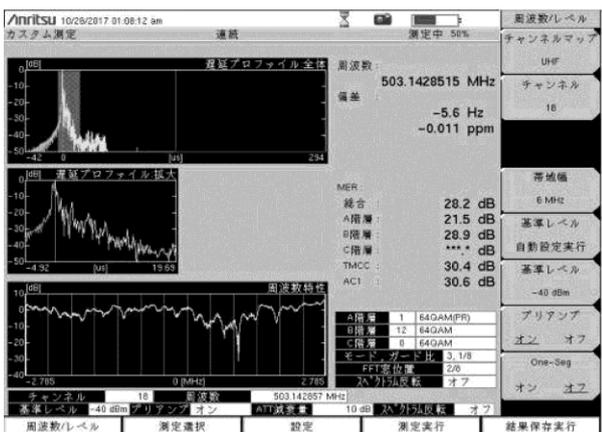
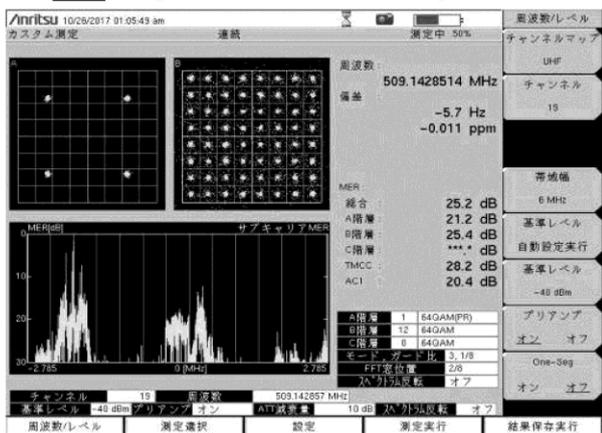


調査地点 No.	5	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

RCC [測定チャンネル: 18]

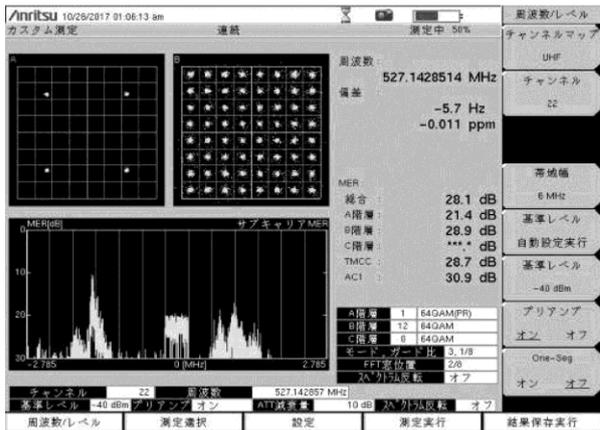


HTV [測定チャンネル: 19]

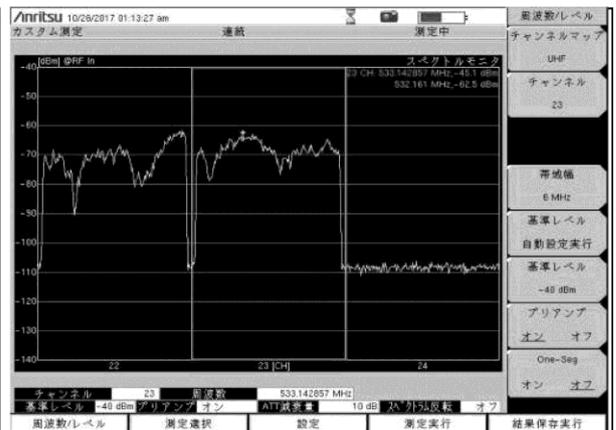
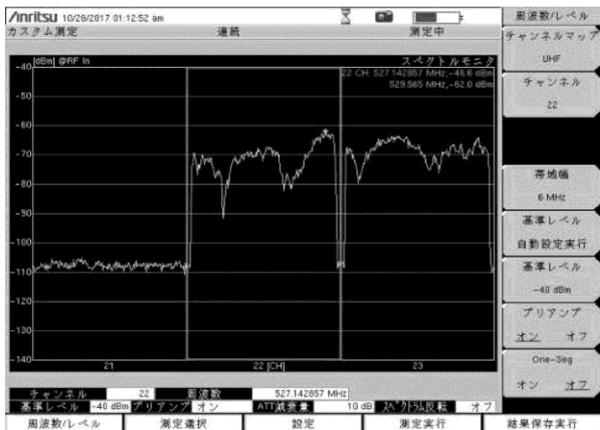
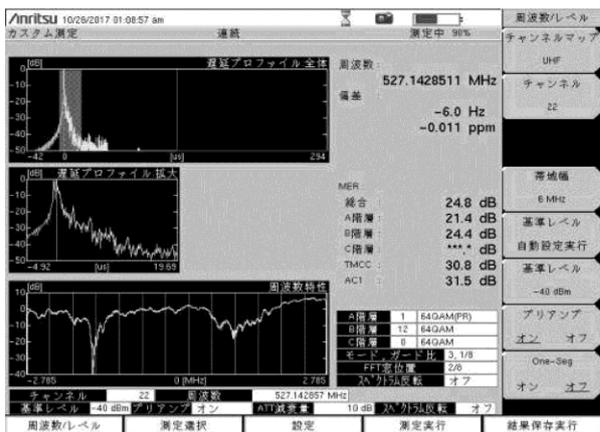
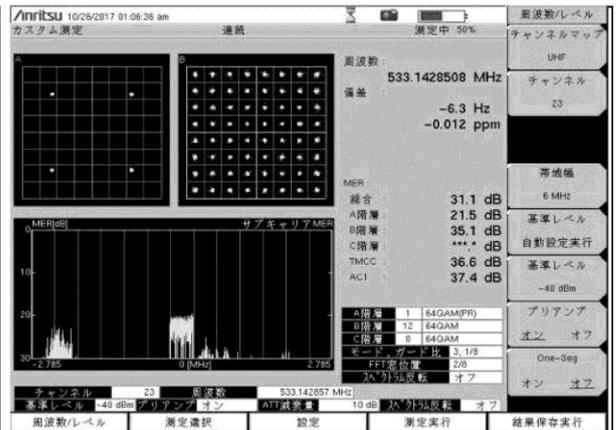


調査地点 No.	5	測定対象局	広島
----------	---	-------	----

HOME [測定チャンネル: 22]



TSS [測定チャンネル: 23]



6. その他

6.1 鳥類現地調査結果

6.1.1 調査項目

- ・鳥類

6.1.2 調査手法

調査手法は表 6.1-1 に示すラインセンサス法、定点観察法及び任意観察法により実施した。

なお、観察は、双眼鏡及び望遠鏡を使用した。

表 6.1-1 鳥類の調査手法

調査手法	調査内容
ラインセンサス法	調査範囲内に踏査ルートを設定し、一定速度で歩きながら、一定の範囲内において確認された鳥類の種類及び個体数を記録する方法。
定点観察法	調査範囲内に観察地点を設定し、確認される鳥類の種類及び個体数を記録する方法。2箇所設定（30分程度/1定点）。
任意観察法	調査範囲内を任意に踏査して、目視または鳴き声等により識別して種類を確認、記録する方法。

6.1.3 調査地点

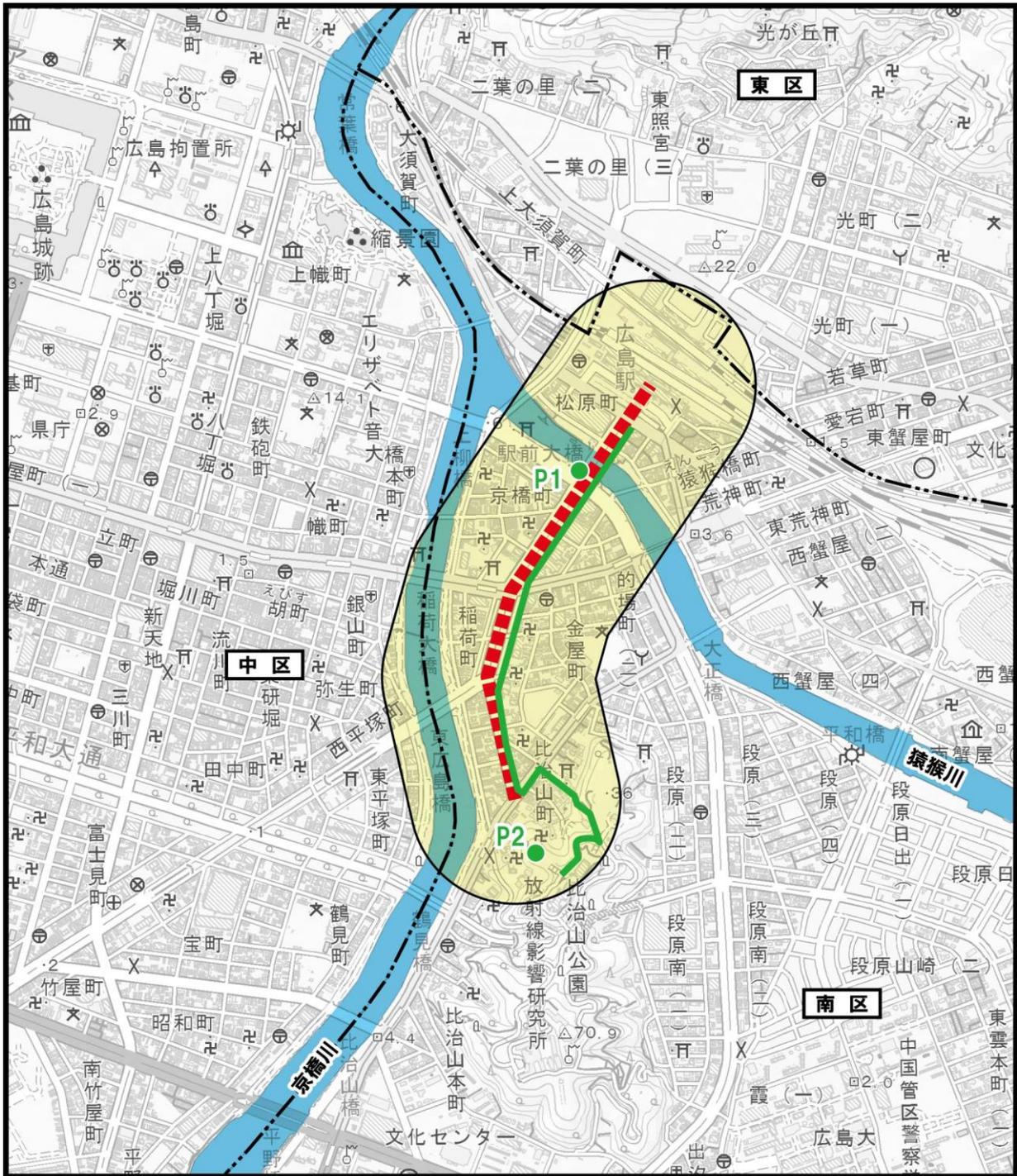
調査地点は図 6.1-1 に示すとおりであり、ラインセンサスの踏査ルートは1ルート、定点観察地点は2地点、任意観察の範囲は事業計画地から片側 250m（両側 500m）とした。

6.1.4 調査時期

調査時期は表 6.1-2 に示すとおりであり、夏季、秋季、冬季、春季及び繁殖期の各回1日とした。

表 6.1-2 鳥類の調査時期

調査時期	調査年月日
夏 季	平成 29 年 8 月 22 日（火）
秋 季	平成 29 年 10 月 13 日（金）
冬 季	平成 30 年 1 月 9 日（火）
春 季	平成 30 年 4 月 27 日（金）
繁殖期	平成 30 年 6 月 14 日（木）



凡
例

- 事業計画地
- 任意観察範囲(事業計画地の敷地境界から250m)
- 定点観察地点
- ライセンスルート
- 区境



Scale 1:15,000



図 6.1-1

鳥類現地調査地点

6.1.5 調査結果

(1) 調査結果概要

調査の結果、10目26科50種の鳥類が確認された。確認種の一覧は表6.1-3に示すとおりである。

事業計画地は広島市街の中心部に位置し、ドバト、ハシブトガラス、ムクドリ、スズメといった都市鳥が主体となる鳥類相を呈している。

調査範囲には比治山公園が一部含まれており、この樹林ではコゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロといった樹林性の鳥類が多く確認された。比治山公園では、秋季と春季の渡りの途中に、ヤブサメやムシクイ類、コサメビタキ、オオルリ等の通過鳥が確認された。また、事業計画地の周囲には河川があることから、カルガモ、カワウ、アオサギ、ミサゴ、イソシギといった水域の鳥が出現したほか、海岸が近いウミネコ、セグロカモメといった海辺のカモメ類も加わった。

年間を通じて確認された種は、ドバト、キジバト、カワウ、アオサギ、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイの16種であった。これらに加え、繁殖期（初夏）に確認されたササゴイ、コサギ、ミサゴ、ツバメ、ウグイス、キビタキ、カワラヒワの7種については、調査範囲を含む周辺地域で繁殖している可能性がある。また、先述の16種に加え、冬季に確認されたヒドリガモ、セグロカモメ、ハイトカ、キクイタダキ、ツグミ等の冬鳥が調査範囲周辺で越冬しているほか、カルガモ、ハヤブサ、キセキレイ、セグロセキレイ、イカルといった留鳥の一部も、冬季に調査範囲周辺に飛来して越冬しているものと考えられる。

表 6.1-3 鳥類確認種一覧

目名	科名	種名	渡り区分	夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	ラインセンサス	定点観察	任意観察	
カモ	カモ	ヒドリガモ	冬鳥			●					○	
		アヒル	家禽	●							○	
		カルガモ	留鳥		●	●					○	
ハト	ハト	ドバト	家禽	●	●	●	●	●	○	○	○	
		キジバト	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○	
カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○	
ペリカン	サギ	ササゴイ	夏鳥					●			○	
		アオサギ	留鳥	●	●	●	●	●		○	○	
		コサギ	留鳥	●	●	●		●		○	○	
チドリ	シギ	イソシギ	留鳥	●	●	●				○	○	
	カモメ	ウミネコ	留鳥	●							○	
		セグロカモメ	冬鳥		●	●				○	○	
タカ	ミサゴ	ミサゴ	留鳥	●		●	●	●	○	○	○	
	タカ	トビ	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○	
		ハイタカ	冬鳥			●					○	
		オオタカ	留鳥		●					○		
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	●	●		●			○		
キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥	●	●	●	●	●	○	○		
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	留鳥			●				○		
スズメ	カラス	ハシボソガラス	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○	
		ハシブトガラス	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○	
	クイタダキ	クイタダキ	冬鳥			●						○
		シジュウカラ	ヤマガラ	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○
	シジュウカラ		留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○	
	ツバメ	ツバメ	夏鳥				●	●	○	○	○	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○	
	ウグイス	ウグイス	留鳥			●	●	●	○	○	○	
		ヤブサメ	夏鳥		●		●					○
	エナガ	エナガ	留鳥	●	●	●	●		○	○	○	
	ムシクイ	オオムシクイ	旅鳥		●					○		
		エゾムシクイ	夏鳥				●					○
		センダイムシクイ	夏鳥				●				○	○
	メジロ	メジロ	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○	
	ムクドリ	ムクドリ	留鳥	●	●	●	●	●			○	
	ヒタキ	シロハラ	冬鳥			●	●			○	○	○
		アカハラ	冬鳥			●						○
		ツグミ	冬鳥			●	●			○	○	○
		ジョウビタキ	冬鳥			●				○		○
		イソヒヨドリ	留鳥	●	●	●	●	●			○	○
		コサメビタキ	夏鳥		●							○
		キビタキ	夏鳥		●		●	●	○	○	○	
		オオルリ	夏鳥				●					○
スズメ	スズメ	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○		
セキレイ	キセキレイ	留鳥			●						○	
	ハクセキレイ	留鳥	●	●	●	●	●	○	○	○		
	セグロセキレイ	留鳥			●					○		
アトリ	カワラヒワ	留鳥		●		●	●	○		○		
	シメ	冬鳥			●						○	
	イカル	留鳥			●				○		○	
ホオジロ	アオジ	冬鳥			●	●				○		
10 目	26 科	50 種		23 種	28 種	36 種	30 種	23 種	26 種	29 種	46 種	

※分類及び配列は日本鳥類目録第7版に準拠した。渡り区分は「ひろしま野鳥図鑑」(1998, 中国新聞社)を参照し、近年の知見を踏まえて判断した。

(2) 調査方法別の結果

① ラインセンサス

ラインセンサス調査の結果、6目18科26種427個体の鳥類が確認された。調査結果の一覧は表6.1-4に示すとおりである。

事業計画地に沿って設定された市街地部分の調査ルートでは13種が確認され、ドバト、カラス類、スズメといった都市鳥が多く確認された。また、カワウ、セグロカモメなど水辺の鳥、ツグミ、ハクセキレイ、カワラヒワなど開けた環境を好む鳥は、ルートのうち市街地部でしか確認されなかった。

一方、調査ルートの南端側は比治山公園の園路が中心であり、樹林環境となる。市街地部と同じくハシブトガラス、スズメは多いものの、メジロ、ヒヨドリといった樹林性の鳥の個体数が多くなった。メジロは特に、秋季に渡りの移動中とみられる35個体の群れが確認されて個体数が増加した。市街地部のルートでは確認されていない樹林性の種として、コゲラ、ヤマガラ、エナガ、キビタキ等が確認された。

両方の環境で出現した種では、ドバト、ハシボソガラス、スズメは市街地に多く、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリは比治山で多かった。

表 6.1-4 ラインセンサス調査結果

目名	科名	種名	調査時期					調査箇所		計	
			夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	市街地	比治山		
ハト	ハト	ドバト	3	10	5	28	23	62	7	69	
		キジバト		1	1	1	1		4	4	
カツオドリ	ウ	カワウ				1		1		1	
チドリ	カモメ	セグロカモメ		1				1		1	
タカ	ミサゴ	ミサゴ			1			1		1	
	タカ	トビ				1	1	2		2	
		オオタカ		1						1	1
キツツキ	キツツキ	コゲラ		2		1	1		4	4	
スズメ	カラス	ハシボソガラス	2	2	2	2	3	10	1	11	
		ハシブトガラス	5	30	29	14	7	26	59	85	
	シジュウカラ	ヤマガラ		2			4		6	6	
		シジュウカラ	1	5	1	4	1	1	11	12	
	ツバメ	ツバメ				2			2	2	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ		17	17		2	1	35	36	
	ウグイス	ウグイス					1		1	1	
	エナガ	エナガ		8		1			9	9	
	ムシクイ	オオムシクイ		1					1	1	
	メジロ	メジロ	1	44	6	4	1		56	56	
	ヒタキ	シロハラ				1				1	1
		ツグミ				2		2		2	2
		ジョウビタキ				1				1	1
		キビタキ					2			2	2
	スズメ	スズメ	17	28	7	23	39	64	50	114	
	セキレイ	ハクセキレイ		1		2		3		3	
アトリ	カワラヒワ		1					1		1	
	イカル				1				1	1	
6目	18科	種数	6	16	13	14	12	13	19	26	
		個体数	29	154	74	86	84	175	252	427	

② 定点観察

定点観察調査の結果、8目20科29種251個体の鳥類が確認された。調査結果の一覧は表6.1-5に示すとおりである。

市街地に位置するP1では、ドバト、ハシブトガラス、イソヒヨドリ、スズメといった都市鳥に加え、カワウ、アオサギ、セグロカモメなど水域を利用する鳥が多く確認された。P1地点付近には街路樹も植栽されているが、樹林性の鳥はヒヨドリが1個体飛来したのみであった。これに対して、比治山公園に位置するP2では、ウグイス、センダイムシクイ、シロハラ、キビタキといった、繁茂した樹林内を好む種や、コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロといった、混群を形成して樹林地を巡回する種が多く確認された。

表 6.1-5 定点観察調査結果

目名	科名	種名	調査時期					調査地点		計	
			夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	P1	P2		
カモ	カモ	カルガモ			4			4		4	
ハト	ハト	ドバト	7	35	12	6	10	30	40	70	
		キジバト		1					1	1	
カツオドリ	ウ	カワウ		1	1	3	1	6		6	
ペリカン	サギ	アオサギ		1		2	2	5		5	
		コサギ		1			1	2		2	
チドリ	シギ	イソシギ		1				1		1	
	カモメ	セグロカモメ		1	2			3		3	
タカ	ミサゴ	ミサゴ	1					1		1	
	タカ	トビ		1	2	2	2	7		7	
		ハイタカ			1				1	1	
キツツキ	キツツキ	コゲラ	1	1	2	1		5	5		
スズメ	カラス	ハシボソガラス		3		1		3	1	4	
		ハシブトガラス	9	9	8	9	5	12	28	40	
	シジュウカラ	ヤマガラ	1	2					3	3	
		シジュウカラ		4		2	2		8	8	
	ツバメ	ツバメ				2	1		3	3	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ		8	4			1	11	12	
	ウグイス	ウグイス					2		2	2	
	エナガ	エナガ	1						1	1	
	ムシクイ	センダイムシクイ				1			1	1	
	メジロ	メジロ	1	2	3	2	3		11	11	
	ヒタキ	シロハラ			1	1				2	2
		ツグミ			4					4	4
		イソヒヨドリ	1	2	1	1			5		5
		キビタキ				1				1	1
	スズメ	スズメ	7	6	3	18	6	31	9	40	
セキレイ	ハクセキレイ	2	1	2	1	1		5	2	7	
	セグロセキレイ			1					1	1	
8目	20科	種数	10	18	16	16	12	15	20	29	
		個体数	31	80	51	53	36	116	135	251	

③ 任意観察

任意観察調査の結果、10目26科46種の鳥類が確認された。調査結果の一覧は表6.1-6に示すとおりである。

任意観察では、ルート、地点、時間帯を限らず、調査範囲一帯を任意に踏査して鳥類を探索した。ラインセンサスや定点観察で確認されなかった鳥類について、確認された環境別にみると、市街地ではコゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロといった樹林性の種、キジバト、ムクドリといった地表を歩いて採餌する種、ジョウビタキ、アオジといった藪を好む種が確認された。比治山の樹林ではクイタダキ、アカハラ、キセキレイ、シメといった数が少ない冬鳥や、ヤブサメ、エゾムシクイ、コサメビタキ、オオルリといった春秋の一時的な通過個体が確認された。水域ではセンサスルートや定点等から離れた京橋川で、ヒドリガモ、アヒル、ササゴイ、ウミネコといった種が確認された。猿猴川や京橋川は感潮域にあり、干潮時には広い干潟が干出することから、干潟に飛来するシギ・チドリ類の生息に注目したが、確認されたのはイソシギ1種にとどまった。

市街地で確認された樹林性鳥類の多くは、事業計画地より西方に位置する京橋川沿いの緑地帯で見られ、川をはさんで対岸の緑地帯とも行き来をしながら採餌していた。こうした樹林性鳥類の移動採餌群は、秋季から冬季に確認されたが、春季、繁殖期、夏季には確認されなかった。

表 6.1-6 任意観察調査結果

目名	科名	種名	調査時期				確認環境			
			夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	市街地	樹林地	水域
カモ	カモ	ヒドリガモ				●				○
		アヒル		●						○
		カルガモ			●	●				○
ハト	ハト	ドバト	●		●	●	●	○	○	○
		キジバト	●	●		●	●	○	○	
カツオドリ	ウ	カワウ	●	●		●	●			○
ペリカン	サギ	ササゴイ					●			○
		アオサギ		●	●	●	●			○
		コサギ		●	●	●	●			○
チドリ	シギ	イソシギ		●	●	●				○
	カモメ	ウミネコ		●						○
		セグロカモメ			●	●				○
タカ	ミサゴ	ミサゴ	●	●		●	●			○
	タカ	トビ		●		●		○		○
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	●	●	●					○
キツツキ	キツツキ	コゲラ	●	●	●	●	●	○	○	
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ				●		○		
スズメ	カラス	ハシボソガラス	●	●	●	●	●	○	○	○
		ハシブトガラス	●	●	●	●	●	○	○	
	ククイタダキ				●				○	
	シジュウカラ	ヤマガラ	●		●	●	●	○	○	
		シジュウカラ	●	●	●	●	●	○	○	
	ツバメ	ツバメ	●				●	○	○	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	●	●	●	●	○	○	
	ウグイス	ウグイス	●			●				○
		ヤブサメ	●		●					○
	エナガ	エナガ	●	●		●		○	○	
	ムシクイ	エゾムシクイ	●							○
		センダイムシクイ	●							○
	メジロ	メジロ	●	●	●	●	●	○	○	
	ムクドリ	ムクドリ	●	●	●	●	●	○		○
	ヒタキ	シロハラ	●			●				○
		アカハラ				●				○
		ツグミ	●			●		○	○	
		ジョウビタキ				●		○	○	
		イソヒヨドリ		●			●	○		
		コサメビタキ			●					○
		キビタキ	●		●		●			○
		オオルリ	●							○
	スズメ	スズメ	●	●		●	●	○	○	
セキレイ	キセキレイ				●				○	
	ハクセキレイ	●	●	●	●	●	○		○	
アトリ	カワラヒワ	●		●		●	○	○		
	シメ				●				○	
	イカル				●				○	
ホオジロ	アオジ	●			●		○	○		
10 目	26 科	46 種	27 種	21 種	20 種	33 種	21 種	21 種	29 種	17 種

(3) 事業計画地周辺における鳥類の利用状況

① 採餌・休息場所としての利用

事業計画地の中央分離帯をはじめ、駅前や河畔緑地に多く植栽されているクスノキに関しては、秋季に京橋川沿いの緑地帯でムクドリによる果実の採食が確認された。このほか京橋川沿いの緑地では、樹皮に採餌した痕跡が確認された。一方で計画地の中央分離帯においては、街路樹を採餌に利用する様子は確認されなかった。

事業計画地に沿って設定されたラインセンサスルートの中で個体数が多かったスズメは、特に南部の松川町交差点付近に多かった。この付近の街路樹の植栽中には草本類が多く生育しており、その種子等を餌としている可能性がある。カラス類は道路端に落ちていたパンらしきものをついばんだり、家庭ごみの袋をつつく姿が確認された。ハシボソガラスは猿猴川を越える駅前大橋の前後で確認されることが多かった。これも、猿猴川の水際に生息するカニや打ち上げられた魚を餌とするため、付近で休息していたものと考えられる。一方、ハシブトガラスは比治山の樹林に多く生息しており、高層建築の上部を飛翔するものが多かった。

② 営巣地としての利用

駅前大橋南詰交差点付近の街路樹帯には、カラス類（種不明）の古巣が複数架けられているのが確認された。春季には巣に入っている個体が確認されたが、尾羽しか見えず、種の同定には至らなかった。位置から推察すると、付近でハシブトガラスに対する排斥行動が見られたハシボソカラスの可能性が高いが、不明である。また、同じく事業計画地の街路樹帯の少し南側では、ハシブトガラスが在巣しているのが確認された。事業計画地の街路樹帯で営巣が確認されたのは、これらのカラス類のみであった。なお、街路樹帯に近い信号機の間隙ではスズメが営巣していた。

カラス類、スズメとも、街路樹帯以外の場所でも、営巣が確認されている。事業計画地以外の植樹帯や公園では、キジバトやメジロの営巣も確認された。

③ ねぐらとしての利用

広島駅前では夜間、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイが街路樹を集団ねぐらとして利用していることが確認された。季節によって利用状況は変化したが、いずれも駅前の人通りが多い街路樹帯に限られ、事業計画地中央の街路樹帯で集団ねぐらをとる鳥は見られなかった。

駅前の集団ねぐらは春季にはほとんど見られなくなり、繁殖期にはあまり集中的ではないねぐらが随所の街路樹で確認された。なお、冬季調査時にはハヤブサがムクドリのねぐらを襲うのが確認された。ねぐらの位置は、こうした天敵の襲撃を受けつつ、漸次変化していき、より安全性の高い場所に集約しているものと考えられる。

④ 移動経路としての利用

事業計画地中央の街路樹帯は、ほぼ単一の樹木列で、北端は駅前大橋南詰、南端は松川町交差点までで止まっている。この街路樹帯では実際に、移動性の樹林性鳥類がほとんど確認されなかったことから、緑地間のコリドーとしての役割は低いものと考えられる。

事業計画地の西側を流れる京橋川の河畔緑地の樹木植栽では、任意調査においてコゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガなどの樹林性の鳥が移動しながら採餌するのが確認された。この樹木植栽は、北は二葉山緑地付近から南は比治山公園付近以南にまで連続しており、離れた2つの公園を結ぶ緑の回廊（コリドー）として、機能していると考えられる。これらの河畔緑地の樹木植栽を利用する鳥は、京橋川を越えて両岸を行き来する場合が多く、河川を含めた両岸で鳥の移動経路となっているものと考えられる。

(4) 重要種

重要種に該当する鳥類は8種が確認された。確認種の一覧は表 6.1-7 に示すとおりである。

確認された重要種は、水域や樹林地に生息する種であった。

事業計画地の近傍では、河川と並行して上空を通過するミサゴ、河川の水際で採餌するイソシギ、ムクドリのねぐらを襲ったハヤブサ等が確認された。また、ハイタカ及びオオタカは比治山公園の上空を通過し、オオムシクイ、シロハラ及びコサメビタキは比治山公園の樹林地で確認された。

なお、本事業において、重要種が利用する水域（河川）や樹林地の改変は予定していない。

表 6.1-7 重要種一覧

目名	科名	種名	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RDB	広島県 RDB	広島市 RDB
チドリ	シギ	イソシギ				AN	
タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT		軽度
	タカ	ハイタカ			NT	AN	不足
		オオタカ			NT	NT	不足
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	NT	不足
スズメ	ムシクイ	オオムシクイ			DD		
	ヒタキ	シロハラ				AN	
		コサメビタキ				NT	
4 目	6 科	8 種	0 種	1 種	5 種	6 種	4 種

※ <重要種の選定基準>

- ・「文化財保護法」(1950)により、文化庁及び都道府県教育委員会が指定した「特別天然記念物・天然記念物」
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992)により選定された「国内希少野生動植物種」
- ・「環境省版レッドリスト2017」(2017, 環境省報道発表資料)の記載種
VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足
- ・「広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)レッドデータブックひろしま2011」(2012, 広島県)の記載種
NT: 準絶滅危惧 AN: 要注意種
- ・「広島市の生物—まもりたい生命の営み—(広島版レッドデータブック)」(2000, 広島市)の記載種
軽度: 軽度懸念 不足: 情報不足

6.2 交差点需要率の算定結果

駅前大橋線の整備に伴う既存道路の自動車交通への影響について、各交差点の交差点需要率で検証を行った。

交差点需要率は、単位時間内に交差点が信号で処理できる交通量に対し、実際に流入する交通量の比率であり、値が高くなるほど交差点の混雑が見込まれ、一般的に0.8～0.9では飽和状態になっていると言われている。

駅前大橋線の整備により既存道路の車線数が減少するため、交差点需要率の値は現況よりも大きくなるものの、いずれの交差点においても0.8を下回っていることから、交通処理が可能であることを示している。

なお、交差点需要率の算定の前提となる信号サイクルは、現況の信号サイクルをベースに想定したものであり、今後の関係機関との協議において変更となる可能性がある。

表 6.2-1 交差点需要率の算定結果

交差点名称	交差点需要率			
	朝ピーク		夕ピーク	
	現況	整備後	現況	整備後
広島駅前交差点	0.372	0.502	0.398	0.468
駅前大橋南詰交差点	0.410	0.532	0.396	0.604
京橋町10番交差点	0.176	0.225	0.207	0.311
稻荷町交差点	0.481	0.567	0.479	0.559
松川町交差点	0.408	0.433	0.413	0.565
比治山町4番北交差点	0.093	0.185	0.133	0.254
比治山町交差点	0.419	0.480	0.590	0.626

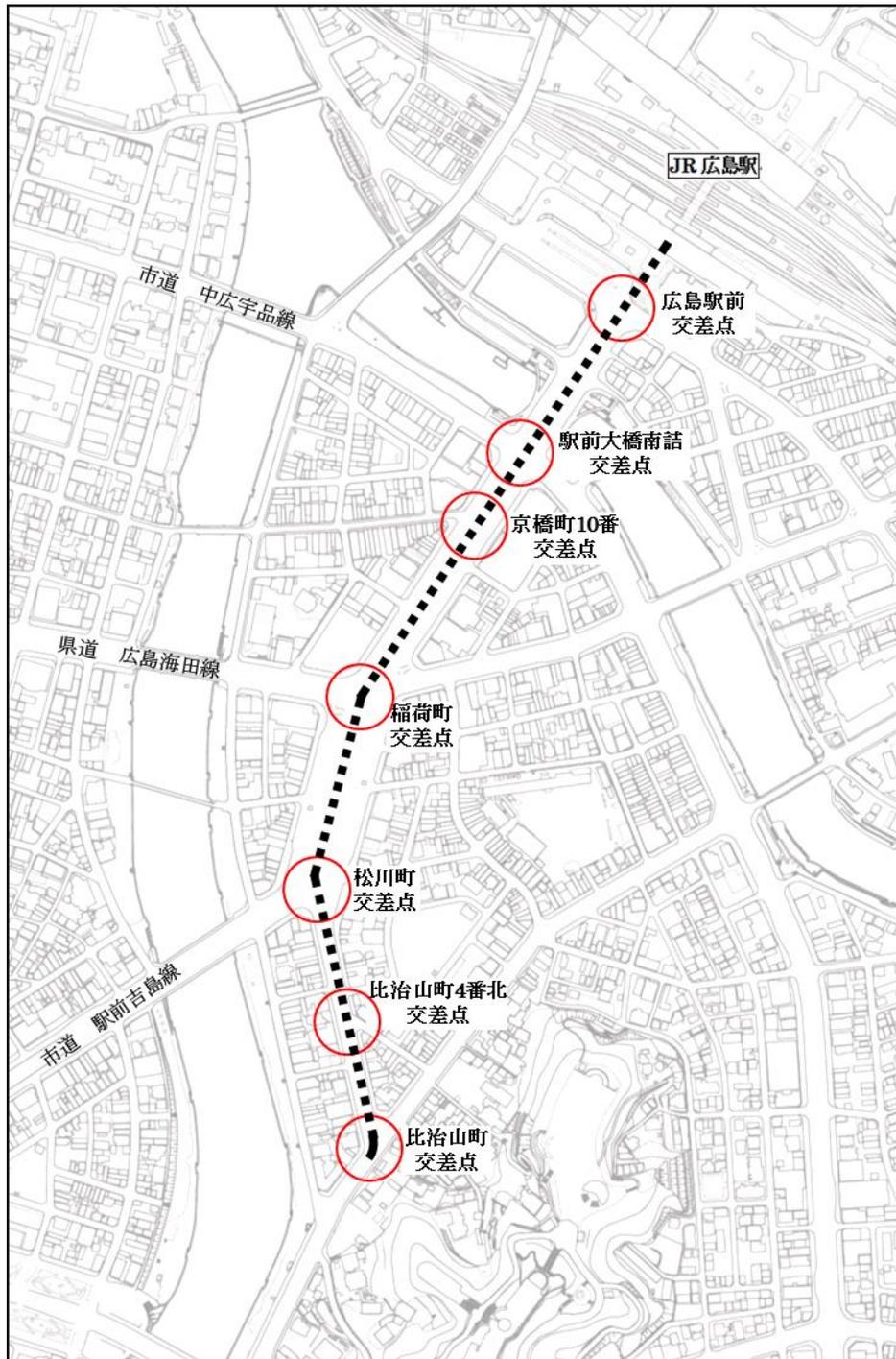


图 6.2-1 交差点の位置図

本書に掲載した地図は、測量法第 29 条に基づく複製承認を得て、国土地理院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(平 28 情複、第 1009 号)